

【検討委員会資料】

平成17年度・第1回検討委員会

於：阿賀野市役所 303 会議室
平成 17 年 11 月 28 日(月曜)
午前 9 時 30 分～午後 4 時

阿賀野市農村環境計画検討委員会現地視察次第

- | | |
|--------------------------------|--------|
| 1. 開 会 | 事務局 |
| ・ 出欠確認 ・ 資料確認 | |
| 2. 挨拶 | 阿賀野市助役 |
| 3. 検討委員委嘱 | 事務局 |
| 4. 農村環境計画検討委員会設置要綱の説明 | 事務局 |
| 5. 農村環境計画の説明 | 事務局 |
| 6. 現地視察日程の説明 | 事務局 |
| ・ 別紙日程表および現地視察位置図およびアンケート用紙の説明 | |
| 7. 現地視察 | |
| 8. 閉 会 (阿賀野市役所玄関で解散) | |

第1回検討委員会の概要（平成17年11月28日現地視察）

平成17年11月28日（月）午前9時30分～10時15分 於 阿賀野市役所303会議室

	氏名	電話番号	経歴等	住所
1	三沢真一		新潟大学農学部教授	新潟市五十嵐二の町
2	平賀健一		新潟県地球温暖化防止活動委員	阿賀野市中央町
3	長谷川幸信		治山防災ヘルパー	阿賀野市折居
4	佐藤幾雄		ほ場整備地区代表	阿賀野市長起
5	斎藤勇雄		農家代表(グリーンファーム駒三組合長)	阿賀野市駒林
6	斎藤英雄		農家代表(米ステーション赤坂代表)	阿賀野市久保
7	吉川清明		農家代表(認定農業者会設立準備会議会長)	阿賀野市北本町
8	高橋美佐子		農村生活アドバイザー	阿賀野市京ヶ島
9	安孫子文子		農村生活アドバイザー	阿賀野市中央町
10	石山昭而		阿賀野市文化財保護審議委員会副委員長	阿賀野市保田
11	田中政喜		JAささかみ営農指導課長	阿賀野市山崎
12	下間静夫		JA北蒲みなみ営農課長	阿賀野市土橋
13	井上正行		さくら森林組合業務課長	新発田市住田
14	松田昭悦		阿賀野川土地改良区理事長	阿賀野市学校町
15	諏佐晴夫		新発田地域振興局農村整備部農村計画課長	新発田市豊町

◎検討委員会（平成16年度～平成17年度）

※委員長は松田昭悦氏、欠席：平賀健一氏、斎藤英雄氏、吉川清明氏、田中政喜氏、下間静夫氏

◎事務局

※欠席：米山哲郎氏、中村彰男氏

	氏名	電話番号	経歴等	住所
1	米山哲郎		新発田地域振興局農村整備部農村計画課主任	新発田市豊町
2	小林 徳		阿賀野市企画政策課長	阿賀野市岡山町
3	中村 彰男		阿賀野市都市計画課長	〃
4	佐藤 和夫		阿賀野市農林課長	〃
5	目黒 裕		阿賀野市農林課長補佐	〃
6	青木 和秀		阿賀野市農林課農林整備係長	〃
7	清野 武		阿賀野市農林課農林整備係主査	〃
8	長谷川義文		阿賀野市農林課農林整備係主査	〃
9	加藤 稔		新潟県土地改良事業団体連合会	新潟市長潟



検討委員の現地視察をおこなった感想

	好きな場所（理由も）	きれいな場所（理由も）	保全したいと思う場所、もの（理由も）	改善した方が良くと思う場所、もの（理由も）
1	瓢湖（四季それぞれの魅力を初めて知った。訪れてみたい。もっとPRを） ゆうきセンター（設置の発想が素晴らしい。これを阿賀野市全域に広めて欲しい）	なし	村岡ジュンサイ池（貴重な資源である。年1回は水を抜いて土砂を流すなど、手を加えて保全する必要があるのではないか）	中山間地農地「折居地区」（地域の将来を話し合っ、U字溝をふせるのに自己負担金を出すのであれば、ほ場整備を考えたらどうかと思う）
2	ほ場整備次郎丸地区 ほ場整備長起地区 （ほ場整備後の美田が良い。こういう所で、直播や特裁米等を作ってみたいという思いがわいてくる） 五頭山麓南線安田工区（市内が一望出来る）	なし	村岡ジュンサイ池（大切に残してもらいたい） リズム・ハウス「瓢湖」（県内外からの農業、他多くの希望者を募り、宿泊してもらい阿賀野市の良さを知ってもらおう）	五頭山麓南線安田工区（道路を貫通させて、すばらしい景観を皆さんに伝えてもらいたい）
3	阿賀野川頭首工（水量の多い阿賀野川と、この場所に頭首工を作った先人に感謝します。濁水期でも、飲料水や水田用水の安心があります）	なし	村岡ジュンサイ池（この地域は、植物・昆虫の種類が多いから）	五頭山麓南線安田工区（林道は必要なものと思いますが、この林道の地形、地質を考えると、標高の高い林道は山をいためる危険性が多い）
4	瓢湖（やっぱり一番は瓢湖！住宅地にあんなに隣接していながら、白鳥や鴨類が多数飛来しすぐ足元で野鳥の観察が出来る場所。数年かけて整備された公園には四季折々の花が咲き乱れ、子供たちの遊び場、市民の憩いの場所になっている。白鳥が初飛来すると必ずテレビ、新聞のニュースになることも嬉しいですね） いこいの森（自然が豊かで、キャンプや川遊びなど親子のふれあいが出来、子供たちが安心して自然に触れ合える最適な場所。また、やまびこ通りトレッキングや五頭登山、五頭温泉郷や野菜直売所など中高年も楽しめる場所。広域林道五頭山麓南線の開通が楽しみです。） 京ヶ瀬の市立図書館（たくさんの蔵書があり、空間も大好きです。つい、時間の経つのを忘れてしまいます）	阿賀野テクノタウン（「130haもの規模を誇る産業団地」と謳っているが市民を苦しめる現況になっている現実は、やはり見直すべきだと思います）	阿賀野市全体の農地および自然（水田自体が地球環境の保全に大きく役立っているし、笹神・安田地区の「里山」は大事にして、これからも観光と連携してどんどん活用していくべき） 新江の桜並木（桜の開花時期になると本当に驚いてしまいます） 阿賀野川（視察を終えて、改めて「私たちは水（自然）に恵まれている」と実感しました。いくら日照りでも水田に当たり前に水が引けるということに感謝しています）	阿賀野テクノタウン（「130haもの規模を誇る産業団地」と謳っているが市民を苦しめる現況になっている現実は、やはり見直すべきだと思います） リズム・ハウス「瓢湖」（時々利用させていただきませんが、年間1千万円の赤字という現実はいかがかな…と。）
5	五頭薬用植物園（気が安らぐ） 五頭温泉郷（気が安らぐ）	安田〔赤坂地区〕（ダシの風）	孝順寺（観光資源） 梅護寺（観光資源）	国道49号から見る（リバーサイド前）阿賀野川の景観および夕日 （阿賀野川ラインは日本百景の1つであるが、雑木が繁って景観が損なわれている）
6	阿賀野川頭首工（必要な水を必要な時、自動的に作動する農業用水を守ってくれる施設。農家でありながら初めて知りました） 五頭山麓南線（阿賀野市にすてきな景観の味わえる所がある事が、市民に知られていない。もっとPRを）	中山間地農地「折居地区」（山間地は折居らしき生き方。きのこ、わらび、くり、林業とか中山間地のおいしい米、その他もっと色々知恵を出して、生活を見直す時期ではないか。金をかけるより、そこにしかないものを見つける、そんな生活も又楽しいと思うけどいかがでしょうか？）	村岡ジュンサイ池（じゅんさいが好んで育った池を大切にしたいと思う。村の宝物、特産を大切に環境整備をした方が良くと思う）	リズム・ハウス「瓢湖」（瓢湖側を入口にし公園を散歩し、遠くに五頭山麓をながめ、心安らげるホテルとして、もっと宣伝し、サービスもすべき）
7	新江の桜並木 五頭山	なし	笹神の農業（環境にやさしい農業ということで、皆さんの努力によりブランドイメージも高まっている） 阿賀用水（農業用以外の役割も非常に大きいため将来にわたって守っていく必要がある） 旧南耕ずい道（廃止された施設であるが、その役割は非常に大きいものがあつた。施設は無くなっても皆の記憶にのこるようにはいかか）	新江の桜並木 村岡ジュンサイ池 （かくれた名所が多いので、多面的機能・維持管理の事ももっとPRしてはいかか） 五頭山の登山道（浸食や土砂流出が著しい。登山に危険であるばかりか、土砂崩壊の原因となることも懸念される）
8	瓢湖（野鳥が多く来ているし、近くで見ることができる） 駒林川（護岸が工夫されている。人間や生物に配慮したものになっている） 五頭温泉郷（自然の中の温泉郷という感じが良い）	なし	五頭温泉郷（景観が良い） 国道290号線沿いの自然（景観が良い）	瓢湖の回り（瓢湖の回りも自然があっても良いと思う。景観が今少し物足りない感じがある）
9	五頭山麓南線 村岡ジュンサイ池 ほ場整備地区	なし	村岡ジュンサイ池 五頭山麓南線	ゆうきセンター（見学通路があると良い）
10	リズム・ハウス「瓢湖」（四季の景観、白鳥餌付け、宿泊施設の清潔さ） 阿賀野川頭首工（大自然の景観、洪水・水害の制御安全、設備の充実） 五頭山麓南線安田工区（眺望の絶景、山の管理の利便性）	なし	湛水防除安野川地区（水害・洪水の予防、周辺に市民憩いの公園等の整備） 中山間地農地「折居地区」（山間地に適した果樹などの栽培はいかか） ほ場整備長起地区（大圃場に驚嘆、将来性を見越したお手本か）	ほ場整備次郎丸地区（神林方式で、長起地区のようにしたらどうか） 村岡ジュンサイ池（自然の景観を生かし、公園らしい休息所の設置） ゆうきセンター（リサイクルの効果甚大、設備の拡大を希望）
総括	五頭山麓南線（4人） 瓢湖（3人） 阿賀野川頭首工（3人） 五頭温泉郷（2人） ほ場整備地区（2人） ゆうきセンター、いこいの森、京ヶ瀬の市立図書館、五頭薬用植物園、新江の桜並木、五頭山、駒林川、村岡ジュンサイ池、リズム・ハウス「瓢湖」（1人）		村岡ジュンサイ池（5人） 阿賀野川または阿賀用水（2人） リズム・ハウス「瓢湖」、阿賀野市全体の農地および自然、新江の桜並木、孝順寺、梅護寺、笹神の農業、旧南耕ずい道、五頭温泉郷、国道290号線沿いの自然、五頭山麓南線、湛水防除安野川地区、中山間地農地「折居地区」、ほ場整備長起地区（1人）	五頭山麓南線安田工区（2人） リズム・ハウス「瓢湖」（2人） 村岡ジュンサイ池（2人） ゆうきセンター（2人） 中山間地農地「折居地区」、阿賀野テクノタウン、国道49号から見る（リバーサイド前）阿賀野川の景観および夕日、新江の桜並木、五頭山の登山道、瓢湖の回り、ほ場整備次郎丸地区（1人）

平成17年度・第2回検討委員会

於：阿賀野市役所 201 会議室
平成 18 年 3 月 7 日(火)
午後 1 時 30 分～4 時 00 分

阿賀野市農村環境計画第 2 回検討委員会次第

- | | |
|--------|--------|
| 1. 開 会 | 事務局 |
| 2. 挨拶 | 阿賀野市助役 |
| 3. 議 事 | 事務局 |

(資料説明：事務局 60 分)

- ① 平成 17 年 11 月 28 日現地視察のまとめの説明
- ② 住民の意向調査（市民アンケート）結果の説明
- ③ 環境資源（資源マップ）の説明
- ④ 環境資源の現状と課題（案）の説明
- ⑤ 環境保全の基本方針（案）の説明

～～ 休憩 ～～

(審議 60 分)

- ① 環境資源の現状と課題（案）について
- ② 環境保全の基本方針（案）について

(資料説明：事務局 10 分)

- ① これからの予定について説明

- | | |
|--------|-----|
| 4. 閉 会 | 事務局 |
|--------|-----|

第2回検討委員会の概要（平成18年3月7日）

平成18年3月7日（火）午後1時30分～4時 於 阿賀野市役所 201 会議室

◎検討委員会（平成17年度）

	氏名	電話番号	経歴等	住所
1	三沢真一		新潟大学農学部教授	新潟市五十嵐二の町
2	平賀健一		新潟県地球温暖化防止活動委員	阿賀野市中央町
3	長谷川幸信		治山防災ヘルパー	阿賀野市折居
4	佐藤幾雄		ほ場整備地区代表	阿賀野市長起
5	斎藤勇雄		農家代表(グリーンファーム駒三組合長)	阿賀野市駒林
6	斎藤英雄		農家代表(米ステーション赤坂代表)	阿賀野市久保
7	吉川清明		農家代表(認定農業者会設立準備会議会長)	阿賀野市北本町
8	高橋美佐子		農村生活アドバイザー	阿賀野市京ヶ島
9	安孫子文子		農村生活アドバイザー	阿賀野市中央町
10	石山昭而		阿賀野市文化財保護審議委員会副委員長	阿賀野市保田
11	田中政喜		JAささかみ営農指導課長	阿賀野市山崎
12	下間静夫		JA北蒲みなみ営農課長	阿賀野市土橋
13	井上正行		さくら森林組合業務課長	新発田市住田
14	松田昭悦		阿賀野川土地改良区理事長	阿賀野市学校町
15	諏佐晴夫		新発田地域振興局農村整備部農村計画課長	新発田市豊町

※委員長は松田昭悦氏、欠席：平賀健一氏、佐藤幾雄氏、吉川清明氏、高橋美佐子氏、諏佐晴夫氏、下間静夫氏

◎事務局

	氏名	電話番号	経歴等	住所
1	米山哲郎		新発田地域振興局農村整備部農村計画課主任	新発田市豊町
2	小林 徳		阿賀野市企画政策課長	阿賀野市岡山町
3	中村 彰男		阿賀野市都市計画課長	〃
4	佐藤 和夫		阿賀野市農林課長	〃
5	目黒 裕		阿賀野市農林課長補佐	〃
6	青木 和秀		阿賀野市農林課農林整備係長	〃
7	清野 武		阿賀野市農林課農林整備係主査	〃
8	長谷川義文		阿賀野市農林課農林整備係主査	〃
9	加藤 稔		新潟県土地改良事業団体連合会	新潟市長湯

※欠席：小林 徳氏の代理で菅原氏



検討委員の主な意見と事務局の対応

NO	意見	事務局の対応
環境資源の現状と課題（案）について		
1	最近の病院の問題については、この検討委員会では取り上げないのでしょうか？ 保健とか医療とかですが。	環境に配慮した農業農村整備事業をするための計画ですので、本委員会では保健や医療に関しては取り扱いません。
2	検討委員の視察で、好きなどころ五頭山麓線、眺めがいいから、もう一方で、これは危険ですよ、やめてください。という意見と、そういうのは、どういうふう調整して、進めていくものなのでしょうか？	山麓線ができあがったことによって、山の整備がし易くすくなることと自然破壊が進むというご意見も多いということなので、それをどのように調和させていくかということだと思のですが、その辺は非常に困難なことです。
3	今、食育という言葉が言われている時代なので、Ⅱ-4-1 ページの課題で「学校教育の一環としての環境教育」がありますが、食育という言葉も入れていただきたいと思います。	「食育」についてですが、Ⅲ-1 ページの生産環境の改善の課題の⑨若年層の農業教育の推進と農業後継者育成の文章に、食育の推進という言葉を入れたいと思います。
4	JA ささかみは H16 年度日本農業賞『食の架け橋賞』を受賞し、先進的な農業をしていると思います。それをアピールしていただきたい。	《委員会では回答しなかった対応案》 Ⅲ-1 ページの生産環境の保存の課題の、『⑦農業の多面的機能の広報・啓発（JA ささかみの消費者との交流活動を広める）』とする。
5	ゆうきセンターの記述があった方が良くと思います。	《委員会では回答しなかった対応案》 Ⅲ-1 ページの生産環境の改善の課題に、『⑩土づくり農業の拡大（ゆうきセンターの利用拡大）』
環境保全の基本方針（案）について		
6	社会環境の基本方針は「阿賀野市の遊・食・住・文化を継承し、子どもから高齢者までが生き生きと生活できる健康都市をめざそう」がよいと思います。「福祉都市」というと何かこう、やってもらおうというイメージがあるので、元気で自分ができるという意味では「健康都市」の方が自分でやってやろうという活力を表すので、いいと思います	社会環境保全の基本方針は、『阿賀野市の遊・食・住・文化を継承し、子どもから高齢者までが生き生きと生活できる健康都市をめざそう。』にします。
7	阿賀野市のいいところを出してもらいましたので、それをどのような方法で阿賀野市民に知らせるのか、自分たちの子どもに伝えていくか、そういうことを考えて、この環境計画の中で方向性を示した方が良くと思います。	《委員会では回答しなかった対応案》 Ⅲ-1 ページの社会環境保全の基本方針で、『阿賀野市の遊・食・住・文化を継承し、……』で方向性を示しています。ただし、本計画ではこれら環境資源の啓発や広報の実施計画等については具体的に検討しません。

平成18年度・第1回検討委員会

平成18年度阿賀野市農村環境計画第1回検討委員会

1. 開 会（事務局）

2. 挨拶（松田委員長）

3. 議 事

（資料説明：事務局）

- ① 農村環境計画策定の経緯と予定
- ② 地域の整備計画
- ③ 農業農村整備事業における環境への対応方策

～～ 休憩 ～～

（審議）

- ① 農業農村整備事業における環境保全目標（案）
- ② キャッチフレーズ（案）

4. 閉 会（事務局）

平成18年度・第1回検討委員会

平成19年1月25日(木) 午後1時30分～4時 於 阿賀野市役所303会議室

【検討委員会】

No	氏名	住所	役職等
1	三沢 眞一	新潟市五十嵐二の町	新潟大学農学部教授
2	平賀 健一	阿賀野市中央町	新潟県地球温暖化防止活動委員
3	長谷川 幸信	阿賀野市折居	治山防災ヘルパー
4	佐藤 幾雄	阿賀野市長起	ほ場整備地区代表
5	齋藤 勇雄	阿賀野市駒林	農家代表(グリーンファーム駒三・組合長)
6	齋藤 英雄	阿賀野市久保	農家代表(米ステーション赤坂代表)
7	吉川 清明	阿賀野市北本町	農家代表(阿賀野市認定農業者会会長)
8	高橋 美佐子	阿賀野市京ヶ島	農村生活アドバイザー
9	安孫子 文子	阿賀野市中央町	農村生活アドバイザー
10	石山 昭而	阿賀野市保田	阿賀野市文化財保護審議委員会副委員長
11	田中 政喜	阿賀野市山崎	J A ささかみ営農指導課長
12	野村 博雄	阿賀野市土橋	J A 北蒲みなみ営農課長
13	井上 正行	新発田市住田	さくら森林組合業務課長
⑭	松田 昭悦	阿賀野市学校町	阿賀野川土地改良区理事長
15	桜井 銀一	新発田市豊町	新発田地域振興局農村整備部農村計画課長

※委員長は松田昭悦氏

※欠席は、佐藤幾雄氏

【事務局】

No	氏名	住所	役職名
1	堀 昭仁	新発田市豊町	新発田地域振興局農村整備部農村計画課計画専門員
2	小林 徳	阿賀野市岡山町	阿賀野市企画政策課長
3	中村 彰男	〃	阿賀野市都市計画課長
4	佐藤 和夫	〃	阿賀野市農林課長
5	目黒 裕	〃	阿賀野市農林課長補佐
6	青木 和秀	〃	阿賀野市農林課農林整備係長
7	清野 武	〃	阿賀野市農林課農林整備係主査
8	長谷川 義文	〃	阿賀野市農林課農林整備係主査
9	加藤 稔	新潟市長潟	新潟県土地改良事業団体連合会 技術部情報課長
10	平山 敏和	〃	〃 技術部設計第2課技師



検討委員会での主な意見

No	意見	対応
1	田んぼダムは洪水調節の時には言いますが、水源かん養の時には言わないのではないかと思います。資料15頁の②水源かん養機能（田んぼダム機能）とありますが田んぼダム機能は削除した方がいいと思います。	②水源かん養機能（田んぼダム機能）の「田んぼダム機能」は削除します。
2	水源かん養の機能としては減水深に面積を掛けて、一日当たり何トンをかん養しているという言い方がいいと思います。	面積 5490ha×減水深 0.015m×深部浸透率 0.25=21 万トンに変更します。
3	「自然環境の保全機能」のところで最後に少し白鳥が出て来るのですが、やはり瓢湖がありますから、ここは白鳥が大事な生き物のシンボルだと思うので秋のコンバインの刈り取りロスが水田を支えていると言う事で、白鳥について地区の特性として入れた方がいいと思います。	③自然環境の保全機能の生物多様性保全に追加します。
4	キャッチフレーズを私なりに考えてきたのですが「自然と共に全てを掛けて自分の生き方を残そう」と書いてみたのですが、キャッチフレーズはその人の農業に掛けた生き方だと思います。これからは人間性を大きく見ていきたいと、私は農業をしてきて思います。	
5	有機肥料栽培型農業という用語を使った事が無い。	「環境保全型農業」に変更します。
6	「健康米」はいつ出来たのか、とホームページに載りませんと、ちょっと問題があるかと思います。ブランドの名前を付けるというとはここで決められるものではない。	削除します。
7	有機農産物とはJASの認証を受けないと有機農産物とはならない。安易に使わない方がいいのかと思います。特別減減米の方ですが県の認証だと5割以下の認証がありまして、それも条件をクリアしないと、有機農産物を表示するにはそういった許可を取らないといけないと思っています。その点を加味して頂いて文章を作る場合配慮して頂いた方がいいかと思います。	
8	「農地・水・環境」をやれば一定のこの形の中で環境保全というのが農家だけでなく農村地帯の一般の人達も入れ込んで目的に沿う環境保全が出来る。	
9	3つエリアがあるわけですからエリア毎の目標みたいなものを一つずつ上げた方がいいと思います。	検討委員会で了解が得られましたので、次のとおりに変更します。 ●生産性の高い農業生産エリア 「安全でおいしい阿賀野市ブランド米の生産基地として、高生産性農業をめざそう」 ●圃場整備が必要な農業生産エリア 「圃場整備を進め生産性の高い環境保全型農業をめざそう」 ●付加価値の高い農業生産エリア 「資源循環型・環境保全型農業をすすめ、優良農地・水路・ため池を次世代に残そう」
10	所有者不明の耕作放棄地とありますが、所有者不明の耕作地というのは阿賀野市にはどれくらい面積あるか、分かりましたら教えてください。代執行はどういう方向なのか、名義をかえる為のものか、また耕作する為の代執行なのか。	阿賀野市内では、所有者不明耕作放棄地は存在いたしません。文書を削除しました。

平成18年度・第2回検討委員会

平成18年度阿賀野市農村環境計画第2回検討委員会

1. 開 会（事務局）
2. 挨 拶（佐藤阿賀野市助役）
3. 議 事（松田委員長）

（資料説明：事務局）

- ①第1回検討委員会議事録の説明
- ②第1回検討委員会資料の修正箇所の説明
- ③農業農村整備事業における整備計画（案）の説明

～～ 休憩 ～～

（審議）

- ①農業農村整備事業における整備計画（案）
 - （ア）広域的整備計画の策定（案）
 - （イ）地域別整備計画の策定（案）
 - （ウ）農村環境計画図（案）
 - （エ）環境整備のイメージ（案）

4. 閉 会（事務局）

平成18年度・第2回検討委員会

平成19年3月13日(火) 午後1時30分～4時 於 阿賀野市役所302会議室

【検討委員会】

No	氏名	住所	役職等
1	三沢 眞一	新潟市五十嵐二の町	新潟大学農学部教授
2	平賀 健一	阿賀野市中央町	新潟県地球温暖化防止活動委員
3	長谷川 幸信	阿賀野市折居	治山防災ヘルパー
4	佐藤 幾雄	阿賀野市長起	ほ場整備地区代表
5	齋藤 勇雄	阿賀野市駒林	農家代表(グリーンファーム駒三・組合長)
6	齋藤 英雄	阿賀野市久保	農家代表(米ステーション赤坂代表)
7	吉川 清明	阿賀野市北本町	農家代表(阿賀野市認定農業者会会長)
8	高橋 美佐子	阿賀野市京ヶ島	農村生活アドバイザー
9	安孫子 文子	阿賀野市中央町	農村生活アドバイザー
10	石山 昭而	阿賀野市保田	阿賀野市文化財保護審議委員会副委員長
11	田中 政喜	阿賀野市山崎	J A ささかみ営農指導課長
12	野村 博雄	阿賀野市土橋	J A 北蒲みなみ営農課長
13	井上 正行	新発田市住田	さくら森林組合業務課長
⑭	松田 昭悦	阿賀野市学校町	阿賀野川土地改良区理事長
15	桜井 銀一	新発田市豊町	新発田地域振興局農村整備部農村計画課長

※委員長は松田昭悦氏

※欠席は、平賀健一氏、桜井銀一氏

【事務局】

No	氏名	住所	役職名
1	堀 昭仁	新発田市豊町	新発田地域振興局農村整備部農村計画課計画専門員
2	小林 徳	阿賀野市岡山町	阿賀野市企画政策課長
3	中村 彰男	〃	阿賀野市都市計画課長
4	佐藤 和夫	〃	阿賀野市農林課長
5	目黒 裕	〃	阿賀野市農林課長補佐
6	青木 和秀	〃	阿賀野市農林課農林整備係長
7	清野 武	〃	阿賀野市農林課農林整備係主査
8	長谷川 義文	〃	阿賀野市農林課農林整備係主査
9	加藤 稔	新潟市長潟	新潟県土地改良事業団体連合会 技術部情報課長
10	平山 敏和	〃	〃 技術部設計第2課技師



検討委員会での主な意見

No	意見	対応
1	20頁の一番右下隅ですが、華報寺では無い事が明らかです。華報寺は、これよりもずっと広大な大きな建物ですし、こんな石段は登って行きますけれど、全く違う個所で、これが、何処か？と言われますと、今はっきりご説明出来ません。公衆浴場から登っていった所にある薬師様のような気がしますので確認をお願いします。	写真を差し替えました。
2	15頁の、水源かん養機能の所なんですけれど、「阿賀野市の水田は約21万トンの水源涵養機能の役割を果たしている。」と言う事ですが、これは、減水深が一日あたりと言う事なので、「阿賀野市の水田は一日あたり約21万トンの水源涵養機能の役割を果たしている。」とするか、あるいは、かん水期間が100日ありますから、下のほうに「水稲作付け面積×減水深×深部浸透率×100日」にしないと、実際には作付け期間中の100倍位の数量が有る訳ですから、本当の正しい値が出ないと思います。	「水稲作付け面積×日減水深×100日×深部浸透率」に変更しました。
3	阿賀野市エリアの中で三つ、里山交流創造エリア・自然環境保護エリア・定住環境創造エリアの三つあってそれぞれ毎にゾーンの説明が有りますが、むしろ、阿賀野市にこのエリアを三つ作りますよ、ゾーンとしてはこの様になりますよ、とした方が分かりやすいと思います。	説明文については、エリア及びゾーンをわけて説明します。また、計画図につきましては、環境資源(番号)を削除しました。
4	IV-23の滞在型交流農業の事例の1町有機農業の所を読んでいくと、現在の作付面積水稲7ヘクタール、ジャガイモ、玉葱の露地野菜が30ヘクタールと言う事で、これは、プロ顔負けの農家なので滞在型交流農業の人の例としては、度外れているような気がします。地元の専業農家も上回っているような感じの特殊な例なので、もっと滞在型交流農業にふさわしい事例が良いと思います。	提示してある事例はいずれも阿賀野市内でないため、誤解を招く恐れがありますので、削除します。
5	IV-12凡例で図面にピンクは何か。青は何か、書かれていないので見た人も分からないですよ。ですから、実際にはほ場整備が完了された地区だけ載せた方がよいのではないかと思います。	凡例をつけて、色別できるようにします。なお、青のエリア(集落排水)は削除しました。ピンクの(ほ場整備)エリアにつきましても、完了と予定をわけました。
6	「五割減減」とは、どういう意味ですか。	「五割減減」とは、農薬5割減・科学肥料5割減の略です。
7	私も畑を二人に貸しているんです。私も畑出来ないので皆さんがよければと思ひ貸していますが、皆さん通ってくるんです。「買って食べた方がいいんじゃないですか？」と言うと「畑へ来るのが楽しみなんです」とおっしゃいます。私も仲間が居れば話をしています。やはり儲ける経済ではなくて、生きる為の楽しみと交流がなければと思います。農業の考え方が違うと思います。	
8	循環的動力は自然に優しいといいますが、やはり昔は自分の家ですべて種などを取りました。トマト・キュウリ・シソであろうとすべてのものを自分の家で採り、足りなければ、隣からもらってきたりしていましたが、いまは種から肥料まで指導があって、何だか豊かな自然の農業が支配されているようです。もうちょっと目指す農業を見つけて行かなければならないと思います。	
9	これから団塊の世代が、どれだけ自分達の生き方を見つけ農業に回帰してくるか、これからの一つの方向づけだろうと思います。	
10	これからは後継者問題ですよ。いかに確保して行くかと言う事、これからの農業は大丈夫なのかなあと思ひます。農家の子供ですら、そう言う傾向もある。かえって農業経験者でない人のほうが物作りを楽しみたい、と言う人もいる訳ですから、そう言う教育の面で後継者を育てると言う事が重要ではないかと考えたのですが。	
11	子供等の健康問題で食に対する意識が高まっていますから、農業の後継者問題についても、どの時代も年配が若い者に対して物足りないと感じていますから、やはり年配の方々からきちっと先導して行ってもらわないと、後継者が育たないと感じます。	
12	長起地区のほ場整備は完了しましたが、整備後は本当に夢のようです。説明会では負担金の話になると反対者がでてましたが、基盤整備の良さが全員で感じて、反対していた人もぜんぜん文句は言わなくなりましたね。労力もぜんぜん掛からなくなって、すごく農業が楽になりました。ですから、若い者が農業へ入りやすく、後継者の心配もありません。	